

登録コード	HM218100	開講年度	2026				
授業題目	母子保健学特論				担当教員	中山 佳子 他	
英文授業名	Special Lectures in Child and Women's Health Science				副担当	金井 誠・中込 さと子・芳賀 亜紀子・徳武 千足 ・佐藤 奈保	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・5時限 月曜・6時限	対象学生	母子保健学ユニット / 1年次
講義室	保健学科 2 1 2 講義室		授業形態	講義	備考	必須科目	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)		
	2026HM保健学分野加, 2025HM保健学分野加, 2024HM保健学分野加, 2023HM保健学分野加						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				母子保健学領域において、より専門性の高い保健学を実践するために必要な知識と技能を探究し、保健・医療・福祉並びに生命倫理的な観点から研究課題を考究し、課題に適した研究方法を実践することができる。		
(2)詳細 /Detailed information	大学院医学系研究科保健学専攻において、母子保健学領域の保健・医療・福祉並びに生命倫理的な観点から研究課題を幅広く考究する。周産期およびその前後のライフステージにおける健康問題、倫理的問題における研究課題を探究し、課題に適した研究法を選択し実践できる能力を修得する。						
(3)授業の概要 /Overview of course	リプロダクティブ・ヘルス / ライツ（性と生殖の健康と権利）の概念と歴史的背景を踏まえ、女性、子ども、親子あるいは家族を対象として、周産期およびその前後のライフステージにおける健康問題や倫理的問題に加えて、感染免疫や先進医療に関する理解を深めるとともに、看護，医学並びに生命倫理的な視点から母子保健学領域の有する健康問題や、健康問題を測定する指標の開発，安心して子どもを産み育てることができる保健・医療・福祉システムに基づく連携プログラムの開発，各種介入法，研究法について論究する。 本授業は、担当教員の母子保健・医療倫理に関わる医師・看護師・助産師としての実務経験と研究経験を活かして講義を行う。						
(4)授業計画 /Course plan	開講日時は受講学生と検討のうえ決定する。 第1-4回 （中山 4/13、4/20） 母子保健に関連する最新の動向について、身体の成長・発達過程、先天性疾患の診断・治療および成人移行医療、ならびに母子保健体制について論究する。 第5-7回（中込 4/27、5/1 5限） 妊娠前・妊娠・分娩・産褥期にある女性に関わる助産ケアの動向、社会的ハイリスクならびに女性に対するメンタルヘルスケアの動向について論究する。 第8回（徳武 5/1 6限） リプロダクティブヘルス・ライツの概念と歴史的背景を踏まえ、思春期・青年期の性と生殖に関わる研究・教育・実践の在り方を論究する。 第9回（芳賀 5/12 5限） 地域における母子保健支援体制を、保健・医療・福祉の連携の理論的枠組みから再構築し、その構造分析および評価指標の検討を通して、実践と研究を架橋する視点について論究する。 第10-12回（金井 5/12 6限、5/19） 特に周産期における保健・医療・福祉の最新の動向、特に医療連携体制や、早産、妊娠高血圧症候群などのハイリスク妊娠に関する疾病管理や重症化予防について論究する。 第13-14回（佐藤（奈） 5/26） 疾患・障害をもつ子どもとその家族に関する研究を中心に、小児看護学領域の研究を概観し、研究方法、倫理的配慮について論究する。 第15回 （中山 6/1 5限） 小児期に外科的手術を受ける事例について、小児期の医療的や支援上の問題から、患者が成人期を迎える事例の妊娠・出産の観点から論及する。						
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	学生の理解度や事前学習内容、およびプレゼンテーションとディスカッションの内容で成績を評価する。評価基準は以下とし、各担当者が評価の上、合議の上決定する。 ・各授業において、基本的な専門用語と概念を理解し、各授業において質問や説明、ディスカッションを行う際に、どの用語や概念を用いるのがふさわしいか判別できている場合に合格水準にある（可）とする。 ・合格水準に加えて、各授業のテーマについて、関連文献や事前学習などができており、自分の考えを述べることであれば、やや優れている（良）。 ・合格水準に加えて、主要な学説や研究を用いた裏付けのもとに、説明やディスカッションができ、かつ本テーマに関する課題や研究の可能性について言及できる（優）。 ・上記（優）の状況に加えて、授業におけるプレゼンテーション、ディスカッションの内容が教員を関心させるレベルにある場合は優れている（秀）とする。 判定基準は、90-100点(秀)、80-89点(優)、70-79点(良)、60-69点(可)、60点未満(不可)とする。						

(6)履修上の注意 ・事前事後学習 の内容・テキスト ・教材・参考 書/Notes/Prep and review work/Textbook(s) Reference work(s)	事前学習：授業課題に関して予習しておくべき事項を担当教員が示す。 事後学習：授業で扱った階層的議論（理解・分析・批判・統合）を整理し、自身の研究に照らして再検討する。学生自身が課題を探究し、議論を段階的に発展させる下記のプロセスを重視する。 ・再構成：授業での議論の流れを自分の言葉で整理する。 ・批判的検討：提示された主張の前提や限界を検討する。 ・接続：自身の研究テーマや先行研究との関連を明確化する。 ・発展：次回に向けた新たな問いを設定する。
(7)質問,相談への 対応/Questions and requests for advice	質問・相談は、授業時だけでなくメールでも随時受けつける。 中山佳子：ynaka@shinshu-u.ac.jp 中込さと子：snakagomi@shinshu-u.ac.jp 金井誠：makotok@shinshu-u.ac.jp 佐藤奈保： 徳武千足：ctokuta@shinshu-u.ac.jp 芳賀亜紀子：akihaga@shinshu-u.ac.jp
(8)授業の形式 /Course format	学生と教員とのディスカッションから研究課題を見出し、教員による講義で理解を深める形式を予定している。